



～ 地域を元気に、魅力ある街を未来へ～



## 第1回

# 環境首都北九州SDGsアワード ESD表彰 報告書

主催：北九州市、北九州ESD協議会



---

## 目 次

---

●表彰の背景・目的	P.2
●2018年度表彰までのスケジュール	P.3
●北九州 ESD フォーラム	
「第1回環境首都北九州 SDGs アワード ESD 表彰」授賞式	P.4
RCE 公開フォーラム	P.5
●受賞者の活動紹介	
最優秀賞 北九州市立霧丘中学校 特別支援学級	P.7
優秀賞 NPO 法人 北九州・魚部	P.8
優秀賞 NPO 法人 北九州ビオトープ・ネットワーク研究会	P.9
優秀賞 若松秋桜会	P.10
特別賞 公益財団法人 北九州活性化協議会	P.11
奨励賞 北九州市立曾根東小学校	P.12
奨励賞 NPO 法人 フードバンク北九州ライフアゲイン	P.13
●北九州市の ESD の取組	P.14

## 表彰の背景・目的

### 北九州 ESD の「原点」は公害克服

ESD (Education for Sustainable Development: 持続可能な開発のための教育) は、持続可能な未来や社会づくりのために行動できる人を育む教育です。

1960年代、北九州市では、深刻な公害を、婦人会の取組をきっかけに、市民・企業・行政等が協働して克服した歴史があります。この歴史を「ESD の原点」と位置づけ、2006年9月に設立した北九州 ESD 協議会を中心に、これまで様々な立場の人が、持続可能な社会づくりのための活動を推進してきました。



婦人会による公害克服運動



大学・企業・自治体も協力し、公害を克服  
(省エネ型生産工程や公害防止機器整備)



公害克服の経験と技術を世界・次世代へ  
(インドネシア・スラバヤ市での  
コンポストによる生ごみ堆肥化事業)



「今」もひろがり続ける ESD の輪  
(北九州 ESD 協議会活動報告会)

### 世界共通の目標 SDGs と ESD

そのような中、2015年に「誰一人取り残さない」という理念のもと、国連加盟国193か国の全会一致で、SDGs(Sustainable Development Goals: 持続可能な開発目標)が採択されました。SDGs という世界共通の目標を達成するためにも、人材育成を担う ESD はますます重要になってきています。

#### SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標



### 持続可能な社会に向けた ESD 活動を表彰

こうした世界的な動きをうけ、北九州市と北九州 ESD 協議会は、ESD 活動者の意欲の向上を図り、本市の ESD 推進をより一層発展させるため、市内で「環境」「人づくり」「地域づくり」活動をしている団体・企業等を表彰する「環境首都北九州SDGsアワード ESD 表彰」を新設しました。



# 2018年度表彰までのスケジュール

10～11月

## 募 集

- 応募資格** 北九州市内を中心に活動し、その取組に次に掲げる全ての項目が含まれている、団体・企業等の活動で、2018年4月時点で、2年以上継続しているもの。
- 環境
  - 人材育成（活動をととした教育や学び合い）
  - 持続可能な社会づくり



12～1月

## 選 考・受賞者決定

- 選考方法** ■ESD/SDGsの有識者からなる選考委員による書類選考及び選考会議を経て、受賞者を決定した。  
 ■選考にあたっては、北九州ESD協議会会員による投票結果も参考とした。
- 選考基準** 活動内容が北九州市内のESD活動のモデルとなり、市内のESDの普及に貢献することが期待されるもので、以下の基準により選考した。

項 目	内 容
ビジョン	持続可能な社会の実現に向けた地域コミュニティ等のビジョン、活動が取り組む課題や目的を明確にしているか。
協 働	多様なステークホルダー（人や団体）と協働しているか。
統 合	環境、経済、社会の視点を複数組み入れているか。
エンパワーメント	持続可能な社会の実現に向けて、課題解決のための学び合いや実践を促す教育が行われ、個人の価値観・態度・行動の変容や地域力の向上につながっているか。
発 展 性	活動が継続的に行われ、かつ発展する見込みがあり、他の活動に波及することが期待されるか。

- 受賞数** 7件（最優秀賞1件、優秀賞3件、特別賞1件、奨励賞2件）

2月

## 北九州ESDフォーラム

- 日 時** 2019年2月9日（土）13:15～17:45
- 会 場** 北九州市立商工貿易会館 多目的ホール
- プログラム**
- 授賞式  
表彰状授与、受賞者の活動発表
  - RCE公開フォーラム
    - 【基調講演】  
SDGs・ESDをめぐる最新の動向と今後のRCEの展開について
    - 【ワークショップ】  
ESDの普及やSDGs達成のためにRCEができること



# 北九州 ESD フォーラム

平成 31 年 2 月 9 日（土）、「環境首都北九州 SDGs アワード ESD 表彰」授賞式と、RCE 公開フォーラムを「北九州 ESD フォーラム」として開催しました。会場には、ESD 活動者の他、全国 7 カ所から RCE 関係者が一同に会し、市内外から約 160 名が参加しました。

## 「第 1 回 環境首都北九州 SDGs アワード ESD 表彰」授賞式

授賞式では、受賞者に賞状と副賞（最優秀賞及び優秀賞）が授与された後、受賞した 4 団体（最優秀賞、優秀賞、特別賞）による活動発表が行われました。授賞式には、選考委員も出席し、参加者全員で受賞者の日頃の活動を称え、学びあいました。



## 活動の様子



北九州市立霧丘中学校 特別支援学級



NPO 法人 北九州・魚部



NPO 法人 北九州ピオトップ・ネットワーク研究会



若松秋桜会



公益財団法人 北九州活性化協議会

## 全体講評

今回のアワードでは、市民の皆さん、NPOをはじめ、多種多様な団体・企業等、総数 38 件と非常に多くのご応募をいただきました。市民の活動をきっかけに、産学官民で公害克服を成し遂げた北九州らしさを感じたと同時に、選考には大変苦慮いたしました。

今回の受賞活動は、5つの選考基準を元に、また、北九州 ESD 協議会会員の投票結果も参考にし、SDGs/ESD を理解し、多様な団体との連携、発信や啓発などに焦点を当て、申請書の字面だけを追うことなく選考委員が一堂に会し、活動の報告からみられる共感や情熱など、協議の上で特にすばらしいと感動したものを選ばせていただきました。

この表彰の目的は、単なる順位付けではなく、SDGs 達成にむけた ESD 活動のさらなる発展、活動者の交流の場あるいはそのきっかけづくりです。今回、表彰とならなかった活動もいずれもすばらしいもので、長年続けてこられた取組も多く、一朝一夕ではなしえない、それ自体が本来評価に値するものです。これらの活動の継続が北九州市の持続可能な発展に大きく貢献しており、今後もそれぞれの活動を続けていただきたいと思います。

最後に、皆様の今後の活動のさらなるご発展を期待いたしますとともに、この表彰が北九州の ESD 推進をさらに牽引するものとなることを祈念しております。（一部抜粋）

選考委員長 国立大学法人福岡教育大学教授 石丸哲史

RCE 公開フォーラムでは、基調講演とワークショップを実施しました。その内容（一部抜粋）をご紹介します。

### 基調講演：「SDGs・ESD をめぐる最新の動向と今後の RCE の展開について」

講師：国連大学サステナビリティ高等研究所 プロジェクトディレクター 瀧口 博明氏

#### 1 SDGs に関する最新動向

2015年9月、MDGsの後継として、国連でSDGsが採択されました。目標達成に向けたグローバル展開として、「ハイレベル政治フォーラム」を毎年実施し、17の目標からいくつかを選びフォローアップしています。フォローアップは、世界5つの「地域」でも実施、さらに国レベル、地方自治体レベルでのボランタリーなレビューも行われています。

今年の「ハイレベル政治フォーラム」は、7月中旬に開催予定で、「教育」がテーマの1つです。昨年は、「持続可能な都市」で、環境省・国連大学等の主催のサイドイベントに、北橋市長にもパネリストとして参加していただきました。また、今年は4年に1回の首脳級のサミットの年で、9月下旬に開催の予定です。

国内ではSDGs推進本部の立ち上げ、SDGsを重視した環境基本計画の策定、「SDGs未来都市」選定を実施しています。北九州市は「SDGs未来都市」に選定され、「第1回ジャパンSDGsアワード」でも「パートナーシップ賞」を受賞されました。受賞理由「公害克服の経験から得た『市民力』やものづくりの町として培った『技術力』を生かし、課題先進都市として様々な取組を実施。これらの取組は長年にわたる国際協力や生活社会の実現など、世界が目指すSDGsを先取りするもの。」は、北九州の特徴を良く捉えています。

また、第5次環境基本計画の目玉として打ち出している「地域循環共生圏」について、「北九州のESDのパンフレット」のイラストに表れているように、北九州市は自然の循環と、都市の循環が調和しており、「地域循環共生圏」が既に実現された街ではないかと感じています。



#### 2 ESD に関する国内外の動きについて

ESDは環境省の解説によると「一人ひとりが世界の人々や将来世代、また環境との関係性の中で生きていることを認識し、持続可能な社会の実現に向けて行動を変革するための教育」です。

2014年に採択されたグローバルアクションプログラム（以下、「GAP」と表記）は、いわゆるESDに関する国際的なフレームワークと言えます。5つの優先分野があり、政策の推進、学習トレーニング環境の転換、教育者やトレーナーの能力強化、ユース（35歳以下の若者層）のエンパワーメントにより、地域レベルでの持続可能な解決策を促進し、5分野それぞれにパートナーネットワークを構築するという仕組みになっています。

一方、SDGsとESDの関係性について、4「教育」、17「パートナーシップ」は、すべての目標をカバーしているのが特徴です。ターゲット4.7はESDに直接触れていますが、13.3「気候変動の緩和適応、影響の軽減及び教育・啓発・人的能力及びそういった機能を改善する」など、様々なターゲットやグローバル指標にも関連してきます。

ポストGAPの動向については、今後、4月頃にユネスコの実行委員会で概案が出され、9月頃に国連総会で採択というスケジュールとされています。ポストGAPでは、ESDは、SDGsの達成に貢献するもので、SDGsによりESDがより明確になると位置付けされています。個々のSDGsの間の関連に対応する上で、ESDはバランスを図る役割を果たし、また、17の目標すべてに対応する一方で、SDGs4「教育」の達成においては中心的な要素です。このポストGAPの動きは、今年の一つの注目すべき点です。

## 3 RCE の活動状況

国連大学のESDプログラムは、国連大学サステナビリティ高等研究所で実施するプログラムの一つで、「ESDの10年」をうけ、環境省からの財政支援で開始したものです。地域における解決策の加速、高等教育の変革、持続可能な開発とESDに関する適性や能力の育成、科学と政策のつながりの強化を図ることを目的としています。

RCE (Regional Centre of Expertise on ESD) は、国連が認定する、その地域のESDの拠点という位置付けです。学校教育機関 (大学から高校、中学校、小学校)、また、インフォーマルでは博物館や美術館、動物園や植物園、あるいは地方自治体、コミュニティー、メディア、NGO、あるいは公民館がパートナーシップを結んで、ESD活動を進めていくということです。縦割構造を解消し、専門家を含め、様々な関係者が集まって重要な課題に取り組むことができます。

RCEは、現在、世界中で166あり、それぞれが拠点として活動するのみでなく、ネットワークを構成して学び合うという面もあります。2年に1回、世界のRCEが集まる会合も開催しており、また、RCEアワードで優れた取り組みを表彰しています。



現在、ユース間のネットワーク構築と情報交換を進めようという流れがあります。

また、RCEとGAPの関係でいうと、GAPの5つの優先課題の一つ、「地域での実施」について、まさに、RCEはプラットフォームになる存在であり、パートナーネットワークに参加しているという位置づけになります。

SDGsの達成に向けて、RCEのさらなる発展に期待するとともに、国連大学もその事務局としてRCEの活動を支援していきたいと考えています。

### ワークショップ：「ESDの普及やSDGs達成のためにRCEができること」

モデレーター：九州地方ESD活動支援センター 澤 克彦氏、北九州ESD協議会運営委員長 眞鍋 和博

ワークショップでは、ワールドカフェ形式により、ESD表彰受賞者の活動発表に対する感想の共有や、「ESDやSDGsを使って私たちができること」について参加者全員で意見交換しました。北海道と北九州のRCE関係者による活動紹介や、特定非営利法人くすの木自然館代表理事 浜本奈鼓氏からのメッセージ等、全国から集まったRCE関係者やESDの有識者等と一緒に、参加者全員で学び合いました。







## 北九州市立霧丘中学校 特別支援学級

■活動名

econnect project (エコネクト プロジェクト)



### 活動目的

私たちは「社会で貢献できる人を目指す」ことを目標に、「自立」や「社会参加」に向け、日々課題に取り組んでいます。「自信の無さ」「自尊感情の低さ」から自発的に他者と関わることでできない生徒が多く見られます。また、社会参加する場や機会が少ないため、学校で習得した生活スキルを実社会で活用する場面がありません。このプロジェクトを通して、生徒達が「環境」をテーマに人とつながり、社会貢献することで、彼らの課題を克服・改善することを目指しています。

### 活動概要

#### ○被災地支援（熊本地震、九州北部豪雨、西日本豪雨、北海道地震）

- ・市民センターにて被災地の特産品を使用した「手作りはちみつレモン」の販売と募金活動を実施。アメリカの学校もクラウドファンディングにより協力。集まったお金を北九州市長へ贈呈。
- ・朝倉子ども祭りに参加し、本校で育てたシクラメンの贈呈、箸づくり体験実施等。

#### ○地域貢献

- ・企業所有林から出た間伐材を分けて頂き、小学生や地域の方と My 箸づくり体験実施。
- ・新聞紙を使用した防災スリッパやざぶとんの作り方を北九州市立大学 421Lab. の学生に教わった。今後、小学校や老人ホームに紹介する予定。

#### ○国際交流

- ・食文化や給食の比較や、フォーク・ナイフ・箸の使い方等のマナー講座を実施（日米 ESD 食育プロジェクト）
- ・お互いの国の環境問題に関する絵本を作成し、共有（日米 ESD 絵本プロジェクト）



「手作りはちみつレモン」販売

### 成果と今後の展望

活動を通して、生徒達は自分から発信することの大切さに気づき、笑顔で人と接することができるようになりました。少しずつ、「人との関わり」「社会参加」に対して自信を持ち始め、意欲的に活動に取り組めるようになってきています。また、活動の際に、声をかけて下さる方も増え、特別支援教育を必要とする子どもたちに対する地域の理解が芽生え始めています。

今後も、関係機関や企業など連携先、また海外との交流機関を増やし、持続可能な社会の形成に向け、全ての人が安心して暮らせる街づくりに取り組んでいきます。



国際交流（日米 ESD 食育プロジェクト）

#### 主な協働機関

教育機関（国内外）、地域、行政機関、企業

#### 選考委員からの評価

- ・取組全体がチャレンジにあふれており、「働くこと」「社会参加」「教育」等、これからの期待できるものである。
- ・ESD の基本理念に沿った広範な活動。
- ・国際交流を含め工夫をこらした5つの連携が有効的に機能している。
- ・地域において特別支援教育を必要とする子どもたちとの理解・交流を促進する効果を生んでいる。



# NPO法人 北九州・魚部

## 活動名

人物多様性や協働を背景に、生物多様性保全やSDGs推進を見据えて全国の水環境と向き合う北九州・魚部



## 活動目的

生物多様性やSDGsというグローバルな価値の実現にローカルな私たちはどう向き合っていけるか、その課題への独自アプローチとして私たちが目指すのは、全国の「生き物や自然好き」な人々が集う場を創出し、その知見や感性を活かして身近な自然に対する「社会の理解や自然を見る目」を育てるような発信や行動をすることです。気づく人や知っている人を増やし、身近な自然を楽しみ、大切にしようという社会の空気を醸成し、社会全体のボトムアップを図り、生物多様性保全やSDGs推進を担いたいと考え活動しています。

## 活動概要

- 生き物調査・研究  
身近な川や池、干潟にて魚類や水生昆虫等の生き物調査を実施。
- 雑誌「ぎよぶる」、各種書籍の刊行  
全国の専門家の科学的知見により情報の信頼性を確保し、生き物調査等の結果を雑誌「ぎよぶる」や各種書籍として発行。
- 展示活動  
全国の博物館や専門家の協力を得て、市内の施設やイベントのほか、博物館等、全国規模での展示活動を実施。
- 自然体験  
人の手による小さな湿地再生により、地域の生物多様性保全に寄与し親も子どもも安心して楽しめる場所づくり「ぎよぶたんぼ・プロジェクト」を実施。湿地づくり、生き物調査、外来種駆除体験等を実施。



ぎよぶたんぼ活動風景

## 成果と今後の展望

継続して取り組む県内の自然の見守りや啓発により、調査場所が環境省の重要湿地に登録(4カ所)され、また、国や県のレッドデータブックの記載事項に調査結果が反映されました。2017年～2018年に開催した「大どじょう展」では約13万5千人を動員(北九州市立いのちのたび博物館、滋賀県立琵琶湖博物館、北九州市水環境館にて実施)。また、北九州市立いのちのたび博物館とのコラボ企画「ヒメドロムシ・ゲンゴロウ展」(2018年)では、約12万2千人を動員し、多くの方々の「知ること」に寄与しました。さらに、地域理解の推進を図るため、雑誌「ぎよぶる」の関連号を沖縄県や鹿児島県の諸地域に、「特盛大どじょう本」を、福岡県や北九州市の環境行政や図書館に寄贈しました。

これからも、「魚部ならではの『面白い』もの」をつくり、持続可能な社会につなげるため、様々な取組を実施・発信していきたいと考えています。



雑誌「ぎよぶる」

## 主な協働機関

全国の研究者、博物館、地域、行政機関

## 選考委員からの評価

- ・長年にわたり、活動を発展させ深めてきた正に世代を超え、地域に根差した活動である。
- ・専門性が高く、九州にとどまらず全国で活動。大規模な企画展開催による周知・普及効果は大きく、多様なステークホルダーとの連携に目を見張る。



# NPO 法人 北九州ビオトープ・ネットワーク研究会

## 活動名

竹が創出する住み続けたい地域  
～竹を使った環境・健康・産業の3本の矢による  
“北九州らしさ”の創造～



## 活動目的

生活様式の変化による竹の利用の減少等により、放置竹林が急速に拡大し、里山の生物多様性や景観を大きく損ねています。私たちは、北九州の市民力や、地域資産を最大限に活かし、誰でも気軽に取り組めるシンプルな行動を実践することで、継続性のある活動を推進しています。

北九州市に豊富にある竹を使い、環境、健康、産業の3本の矢により、地域の皆さんが笑顔あふれるまちづくりに寄与します。

## 活動概要

### ○里山の生態系・景観の保全

市民参加型、企業協働型による荒廃する里山・竹林の保全活動「平成竹取伝説」の継続的な実施（2019年2月時点：計150回）と、児童を対象にした竹細工教室、七夕飾り作り、門松作りなどの環境学習の開催。

### ○伐竹を使った健康支援

市民の健康増進を図るため、伐竹を青竹踏みとして活用し、市民センターと連携しながら気軽にできる健康教室を開催。また、青竹踏みは熊本地震の被災地支援として寄贈。

### ○伐竹の産業利用

地元の企業と連携し、伐竹を基材とした法面緑化材や防草材などを開発し、公共工事や家庭などにおける建設資材として活用。



平成竹取伝説

## 成果と今後の展望

自然体験活動の意義・効果として、「社会を生き抜く力」の養成、規範意識や道徳心の育成、学力への好影響などがあると言われる現代で、子どもだけでなく多くの市民が自然体験できる機会を提供しています。また、保全活動を通して、里山の危機的な状況を実感した参加者が継続的に活動に加わるようになり、管理手法や頻度について提案を出す等の行動変容が見られています。

今後も、健康推進支援、里山景観の保全、生物多様性の保全活動を継続していきます。その他、自然災害の減災への貢献や、産業利用では、竹再生エネルギーの創出のためバイオマス発電の誘致等、時代の変化に対応し新しい付加価値を創出し、竹の利活用の拡大を図ります。



市民センターでの青竹踏み健康講座

## 主な協働機関

教育機関、市民、地域、行政機関、企業、産業研究機関

## 選考委員からの評価

- ・市民から企業までの協働体制で取り組んでおり、これからつながっていく活動。
- ・竹が持つ価値に注目し、環境学習や健康支援・経済へとつなげようとするアイデアは評価に値する。
- ・活動内容が具体的で、地域の課題と教育がうまく結びついている。



# 若松秋桜会

■活動名

## 環境ボランティア "輝く未来は今ここから私から！"



### 活動目的

未来からの預かりものである私たちの大切な子どもたちに、素晴らしい地球環境をそのまま贈るという願いから出発しました。一つひとつの活動の積み上げや継続により、顔の見える横のつながりを創出し、地域住民の意識向上と参画を促すことを目的としています。

### 活動概要

- 1994年～2011年 若松区の国道495号線沿いへのコスモス花壇作りに参加したことをきっかけに活動を開始。
- 1995年～2001年 北九州市響灘緑地グリーンパークにてフリーマーケットを開催。収益はすべて留学生の生活支援として贈呈。
- 1999年～ 家庭から排出される二酸化炭素を数字で表し、無駄な排出を削減する環境家計簿推進活動を実施。
- 2001年～ 北九州博覧祭で環境家計簿の推進やマイバッグ運動を紹介。2006年2月、ノーベル平和賞受賞者のケニアの環境の母、ワンガリ・マータイ氏を招いて行われた市民フォーラムの際に手作りマイバックを贈呈。
- 2003年～ 北九州エコステージ（エコライフステージ）の第1回から出展し、古着や不要な布を使ってリメイクしたリユースエコバックを展示。
- 2004年～2013年 小学生を対象に、使用済みペットボトルを使った風車を作る出前エコ講座を開催。
- 2006年3月～ 鳥がさえずる緑の回廊植樹会に参加。
- 9月～ 北九州ESD協議会設立時より参加。
- 2012年～ JICA研修生との交流。



鳥がさえずる緑の回廊植樹会

### 成果と今後の展望

20年間継続してきたコスモス街道の花壇は、多くの人にとって秋の人気のスポットになり、緑の回廊作りでは近隣のビオトープを含め、多くの鳥や貴重な生き物の生息地となりました。また、秋桜会版の環境家計簿が北九州市版の原型となり、低炭素を目指す本市の取組に一役買うことができました。小学生を対象にした出前講座では、毎年12校を訪問。延べ7000人と交流し、SDGs達成を先導する人材の育成に貢献しました。その他、海外研修生との交流では、ゴミ問題解決等に貢献しました。

最近では、「これってESDの活動と言えるのよね?」と地域から声を聞けるようになり、活動者は人や社会のために役立つことが自身の豊かな人生につながることを実感しています。

今後も、この活動が必ず未来で実を結ぶことを確信して、誰一人置き去りにしない社会の実現に向けて継続していきます。



JICA 研修生との交流

主な協働機関

教育機関、地域、行政機関、企業

選考委員からの評価

- ・継続的で地道な活動がSDGsをめざす今、結実している。北九州にふさわしい、女性による環境保全活動には深みがある。
- ・地域に密着した活動でありながら、世界へとつながる意図や情熱を感じることができる。



# 公益財団法人 北九州活性化協議会

## 活動名

リサイクルトイレットペーパー「北九州紙えこっパー」による  
“もったいない”を未来に引き継ぐ事業



## 活動目的

私たちは、誰もが使用するトイレットペーパーをSDGsの具体的な啓発と行動推進ツールとして、市民と共に企画、運営する事を基盤とし、地域の企業との協業による生産と流通システムを開拓してきました。本事業は、牛乳パック等の古紙リサイクルによる再生商品「北九州紙えこっパー」の開発、製造、販売、普及を通じて、地域循環型社会の形成に向けたソーシャルキャピタルの醸成と地域に根差した産業育成を目的としています。

## 活動概要

- 環境課題解決  
牛乳パック等の古紙リサイクルによる再生トイレットペーパーの開発、製造および販売により環境意識の啓発と地域ネットワークの形成
- 地域活性化  
環境と経済の両立をテーマとして、北九州ブランドのオリジナル商品開発と社会への導入
- 都市ブランド力の強化  
「えこっパー」の開発とその活用によるSDGsの環境都市イメージの向上
- 環境教育推進  
年長者研修大学校での出前講座や、小学校応援団との連携による環境学習の実施
- 産業と技術革新の基盤づくり  
製造技術の研究、開発の実施と企業立地の実現(大分製紙(株))
- プロモーション活動による事業の拡大  
市・大分製紙(株)とタイアップしたイベントの実施。メディアを利用した広報活動や、地元大手企業、金融機関等の工場・事業所での採用活動



「いたんプリントえこっパー」販売による  
都市ブランド力の強化

## 成果と今後の展望

「えこっパー」は、発売以来17年間で累計総数1974万ロールを販売しました。牛乳パック約2,367万枚+古紙8,200トン分のリサイクルにより、CO2排出の抑制、エネルギー使用量の削減、森林資源保全等の地球環境負荷の低減に貢献しました。また、これまでに大分製紙(株)から、子どもの環境教育の一助となることを目的として302万円の寄付をいただきました。

この事業を通して、市民・企業の環境意識の向上を図り、市・市民・企業との連携と良好なパートナーシップを構築し、古紙リサイクル型製紙工場の誘致にも成功しました。

今後は、市や企業等と連携し、さらなる「えこっパー」の普及促進により、

- ①市民環境意識の高揚
  - ②地域循環型社会形成に向けたソーシャルキャピタルの醸成
  - ③地域に根差したリサイクル産業の育成
- を通じて、環境首都の実現に向けて取り組みます。



2017年度寄付金目録贈呈式

## 主な協働機関

教育機関、地域、行政機関、企業、業界関係協議会、牛乳パックリサイクル関係団体

## 選考委員からの評価

- ・多方面からのアプローチであり、SDGsに向かっている北九州市を象徴する取組といえる。
- ・具体的な商品化をとおした、事業としての実績はもちろん、地域でのサーキュラーエコノミーを実現している。



# 北九州市立曾根東小学校



## 活動名

主体的に学び、持続可能な社会を創造できる児童の育成を目指した環境教育

## 活動目的

本校は、校区内に曾根干潟があり、周辺が豊かな自然に囲まれた特徴ある学校です。本校では、生まれ育ったまちに誇りをもち、大人になって故郷に貢献し、持続可能な社会の実現に向けた人財育成を目指して「曾根東小学校環境教育プラン」を独自に開発し、取り組んでいます。今年度は「人・もの・こと」との関わりを通して、曾根東の地域に愛着や愛情を感じ、環境を大切にしたい思いをもち、自他のよさに気づき、認め、共に生きようとする態度を身に付けた子どもの育成を目指し取り組みました。

## 活動概要

- 第1学年 秋の自然物に触れ、その良さや自然への思い・気づきを互いに共有。
  - 第2学年 地域の人と関わる中で、地域の良さに気づく。
  - 第3学年 干潟に続く川やクレークの生き物調査を行い、多様性生物について追究。
  - 第4学年 ごみ減量のための実践力を学習。
  - 第5学年 干潟の調査、インタビュー活動から課題を見出し、解決の方法や発信の仕方を考え、実践。
  - 第6学年 児童生徒手作りの情報発信基地「エコミュージアム」の改装と、地域環境フォーラムへの参加。
- ※上記の他、全学年共通で、曾根干潟の清掃活動、どろんこ集会（曾根干潟のウォークラリー）を実施。



どろんこ集会の様子

## 成果と今後の展望

- 第1・2学年 自分の考えを思考ツールなどを用いて相手に伝え、みんなで情報を整理することを学びました。
- 第3学年 協働的に学ぶために、思考を可視化し、学んだことをマップにまとめて学びの自覚を促しました。
- 第4学年 課題に応じた目的をもたせ、思考ツールを使って個人の思考を表出させることで、意欲的に自分の考えを表現できるようになりました。
- 第5学年 「私たちの曾根干潟」紹介 VTR を作成し、地域環境フォーラムで広く保護者や地域に発信しました。
- 第6学年 エコミュージアム改装は、制作当時の在校生の思いを考えつつ、下級生の希望を取材し完成させました。



曾根干潟クリーン作戦の様子

今後は、「持続可能な社会の構築」「環境教育で育てたい資質・能力の育成」をキーワードに、これまでの環境教育を継続・深化させていきます。また、長年実施してきた曾根干潟クリーン作戦や、絶滅したシチメンソウを曾根干潟に取り戻すシチメンソウ復活プロジェクトを中心に地域と連携し、子どもの目線、発想を生かして活動に取り組みます。

## 主な協働機関

地域、行政機関、環境団体、NPO

## 選考委員からの評価

- ・体系化された教育プログラムを長年実施している。
- ・学年毎にテーマを設定し、行政、NPO など多様な団体と協働している。
- ・環境教育として優れており、地域密着型で、地に足がついた取組である。



## 特定非営利活動法人 フードバンク北九州ライフアゲイン

### 活動名

フードバンク活動を通して食料支援から包括的支援につなぎ、  
子どもの貧困の連鎖を断ち切ることを目指す北九州市モデル構築事業



### 活動目的

『生まれ育った環境のために、満たされる食事ができない、十分な教育が得られない、ひとりぼっちの子どもを北九州市からゼロにする』をミッションとして、食品ロスを子どもの貧困の連鎖を断ち切る手段として役立て、食品ロスに貢献しつつ、ミッションの達成ができるよう社会システムを構築することを目的としています。

### 活動概要

現在、日本では年間約 646 万トン（北九州市では 3.4 万トン、約 79kg/世帯）の食品ロスが発生する一方で、十分に食事ができていない子ども達は6人に1人とされています。当団体は、県内、企業 101 社や農家から食品ロス食材を集め、市内福祉施設 84 団体に配布しています。また、食料支援を 95 世帯に対して行い、かつ、地域で子ども達を育成するため、市と協働して子ども食堂を運営し、地域コミュニティの孤立化を改善し、多世代交流の活性化、情報共有のプラットフォームとしています。長期的には包括的な支援につなぐ社会ネットワークを構築するため、企業との連携により市内の子どもの貧困の連鎖を断ち切る環境整備を行うほか、社会課題の活動虚証として高校生、大学生へのスタディツアーを実施、地域の人材育成も行っている。



コカ・コーラボトラーズジャパン(株)からの食品寄贈

### 成果と今後の展望

若者を含めたスタディツアー等を開催し、食品ロスの現場の実感によりもったいない精神の醸成が図られました。また、食料支援の現場に携わった多くのボランティアが、その実態を理解し、公のセーフティネットを真剣に考えるようになりました。さらに、子ども食堂を市内に広げていく中で、食品ロスや子どもの貧困が地域の課題として認知され始めました。

将来は、県内で発生した食品ロスを県内全域で安定的・継続的に活用するために「福岡県フードバンク協議会（仮称）」により窓口を1本化することで、県内の各フードバンクの連携を強化し、この福岡県モデルが全国にインパクトを与え波及していくことを目指しています。



Aruk 小倉東店からの食品寄贈

### 主な協働機関

企業、地域、行政機関、福祉施設

### 選考委員からの評価

- ・食品ロスと貧困問題という社会課題に対し、大学生等を巻き込みながらスピーディーに対応している。
- ・今、注目されているテーマであり、食品ロスの解消に向かう具体的な取組が明確。
- ・高い理念を掲げ、活動を継続しており、地域の課題に対応した取組。

## 北九州市の ESD の取組

北九州市では、北九州 ESD 協議会（以下、協議会）を中心に、SDGs 達成のための学びである ESD を推進しています。協議会では以下の**5つのプロジェクト**を中心に様々な取組みを実施しています。

### ステークホルダー推進プロジェクト

2017年度より、ESD の普及と ESD に取り組む人々の活動をつなげることを目的に、毎月1回の定例イベント「ESD ツキイチの集い」を開催しています。毎回、SDGs の目標をテーマに、ESD 活動者や企業、教育機関等、様々なジャンルの方による講演会やワークショップ等を行っています。



第6回「ESD チラシを作ろう」  
(2017年11月)



第16回「COOL CHOICE ゲーム in 小倉」  
(2018年11月)

### ブランディングプロジェクト

広報誌「未来パレットだより」の発行や、ホームページや Facebook の運営をしています。「未来パレットだより」は、協議会の活動報告や会員からの声等を掲載し、協議会活動を発信してきました。また、ホームページでは、イベント情報等のほか「未来パレットの仲間たちにインタビュー」と題して、協議会会員が ESD に取り組むきっかけや活動に対する想い等を掲載しています。その他、ESD をより多くの人に知ってもらい、イメージしやすくするため、市の ESD 広報物に対してアイデア出し等も行っています。



未来パレットだより



PR用テーブル幕

### 人材育成・発掘プロジェクト

地域づくりの拠点施設である市民センターと ESD 活動者をつなぐため、市民センター関係者を対象にした交流会「おしゃべり工房」を開催しています。毎回、市民センターをリレー形式で回り、市内の活動者や市民センターの活動紹介の後、参加者同士の交流の時間を設け、普段地域の中では出会えない人々との出会いを創出しています。



活動者によるパネルディスカッション  
(2019年3月、第5回開催風景)



参加者からの自己紹介・活動紹介  
(2018年7月、第3回開催風景)



## 北九州市の ESD の取組

### 調査研究・国際プロジェクト

市内の ESD 認知度調査を 10 年以上に渡り実施している他、企業におけるワーク・ライフ・バランスの取組への調査も進めています。また、文化継承のためのツールとして日本伝統のおせち料理について学ぶ教材や、ハンバーガーの製造過程からフードマイレージについて学ぶ教材の開発を行っています。

海外との交流では、視察の受け入れ、韓国 RCE であるトンヨンやインジェを中心に、お互いの国や ESD の取組についての学び合いを行っています。



ESD 認知度調査



RCE インジェ（韓国）視察

### イベントプロジェクト

北九州市環境ミュージアムのイベント「未来ホテルデー」や、市役所周辺で行われる西日本最大級の環境イベント「エコライフステージ」等に毎年出展しています。また、「TOTO リモデルフェア」など企業のイベントにも出展し、様々な市民に ESD を普及しています。「エコライフステージ」では、協議会会員ブースを回るスタンプラリーを実施する等、ESD や SDGs を初めて知る方々にも理解してもらうため、より質の高い学びが提供できるよう工夫しています。



未来ホテルデー（2018年6月）



エコライフステージ（2017年10月）

### その他の活動

#### ○まなびと講座

「まなびと ESD ステーションにおける共同授業・単位互換の包括協定」を結ぶ大学（協定校7大学）の学生や一般市民を対象にした、大学関連携の授業です。5日間で15コマの講座を行い、座学、聞き書きなど様々な学びのスタイルで「持続可能な社会」について考えます。また、北九州で ESD を実践する人々と語り合うことにより「自分たちがどんな選択をし、どんな行動をとっていけばいいか？」を参加者に考える場を届けています。



聞き書き

## 北九州市の ESD の取組

### ○企業向け研修

企業団体と連携し、2015 年度より市内企業を対象に ESD 研修を開催しています。ESD/SDGs に関する講義や取組紹介、SDGs を体感的に学ぶゲームを実施し、参加者の理解を深めています。

また、2018 年度からは、企業を対象とした有料講座「SDGs 社内リーダー育成講座」を実施しています。企業経営に SDGs を取り入れる必要性や国内の先進事例などを学び、実践に必要なリーダーシップやファシリテーション技術を養い、自社でできることを考え、実際に取組を社内で実行してもらう等、「座学」から「実践」までの一連の流れを体験できるよう組み立てています。



SDGs 企業向け研修 (2019 年 2 月)



SDGs 社内リーダー育成講座

### ○国際会議や視察の受け入れ、フォーラムの開催

2017 年度は「ESD 日米教員交流プログラム (フルブライト・ジャパン主催)」、2018 年度は「第 19 回日中韓環境教育ネットワーク (TEEN: Tripartite Environmental Education Network)」の受け入れを行いました。国際シンポジウムの開催、協議会や協議会会員の活動紹介、ワークショップ等を通じて、海外の ESD 関係者と交流を深め、取組を世界へ発信しました。



ESD 日米教員交流プログラム受け入れ  
(2017 年 6 月)



第 19 回日中韓環境教育ネットワークシンポジウム  
受け入れ (2018 年 10 月)

### ○まちゼミ

2018 年度より、魚町商店街が企画開催する「まちゼミ」と協働し、ブースを出展しています。商店街を訪れる一般の方を対象に、ESD や SDGs をテーマとした講座を開催しています。



2018 年 11 月開催風景

### ○市民センターを対象とした出前講座

協議会会員の活動情報を提供する仕組みとして「ESD 出前講座カタログ」を作成・配布し、会員による ESD 出前講座を市民センター等で開催しています。



ESD 出前講座カタログ

### ○市内 ESD 活動への助成

市内の ESD 活動をさらに充実したものとするため、協議会会員が市民団体、NPO、産業界、学術機関等と協働して市民センター等で ESD 活動推進事業を実施するために設立した活動団体を対象に、助成を行っています。



